

### 第3章 中高連携の推進

本計画（案）は、単に中学校を再編統合するだけでなく、新中学校を勝山高校敷地内に立地し、緊密な中高連携を進めようとするのが極めて重要な鍵となっています。

現在、福井県の公立学校では、中高の一貫教育または連携教育を進める次の2つの形態があります。

#### (イ) 中高一貫教育（文部科学省分類の「併設型中高一貫教育」）

県立高校と県立中学校が同一の施設において、一貫教育に取り組む。この場合、中学校で入学試験を実施し、高校へは入試なしで進学する。なお、高校は一般入試による生徒も受け入れる。

（県内例：高志高校・高志中学校）

#### (ロ) 中高連携教育（文部科学省分類の「連携型中高一貫教育」）

一つの県立高校と同一地域内の市・町立中学校の間で連携教育に取り組む。この場合、中学生の希望者を一定数選考の上、いわゆる「**連携クラス**」として中学3年時に発展学習（先取り教育など）を行い、当該生徒は簡便な入試で連携高校へ進学する。その他の中学生は、連携高校も含む一般入試により志望校等へ進学する。また、連携高校は一般入試による生徒も受け入れる。

（県内例：金津高校とあわら市立中学校など）

本計画（案）において勝山市での導入を検討しているシステムは、(ロ)の中高連携の形態です。

ただし、既存の中高連携校は高校と中学校が離れて立地している（施設分離型）のに対し、勝山市の場合、中高を併設立地しようとする点が大きく異なります。

それにより、両校の有機的・濃密な連携が可能となり、中学生の多様な進路志望に対応するより効果的な教育を始め、中学校・高校両校の活性化に資する様々な活動と効果が期待されます。具体的には次のようなことが考えられ、その進め方等について、今後詳細な検討を行っていきます。

- 高い目標を持って大学進学を目指す中学生には、発展学習を実施。
- 高校から先の多様な進路を目指す中学生には、個々に応じた効果的な学習方法の指導やキャリア教育を実施。
- 中高教員が一体となったレベルの高い部活動指導により、中高生徒の競技力・技術力を向上。